

(この **ご説明** をプリントアウトし手元に置き動画の画面と照らし合わせながら見るとより理解が進みます)
CW 解読器には モニター音付の **CWD2014M** とモニター音無しの **CWD2014L** の 2 モデルがあります

基本的な操作のご説明をします

- 1 電源スイッチを入れます
- 2 LCD の明るさ調整を LCD ツマミでします、最初 左に回し 次にゆっくりと右に回し文字がはっきりと見えるようにします
- 3 検出ツマミは ツマミを良く見ると矢印が有ります、この矢印を時計の 12 時の位置にします
- 4 黒いボタンは ファンクションスイッチと言います、このボタンは 欧文と和文の切り替えやバンド幅の切換えをします、E の表示は 欧文です J の表示は和文です
- 5 右下のツマミは モニター音の調整用です、取りあえず右いっぱいに戻します
尚 モニター音無しのモデルには モニター音の調整ツマミと モニタースピーカーは有りません、モニター音無しのモデルは 左側面の OUT 端子に別途イヤホン又はスピーカーを繋いでください
- 7 電池の交換は 裏蓋を マイナスドライバーでこじる様にして 開けます
電池は市販のアルカリ電池の単四電池 4 本を 電池ケースのバネの方を電池の マイナスになる様にセットし ふたを かぶせます

第 1 章 使い方を簡単にご説明します

一つ目 モールス練習器 (GR301A/er) と繋ぎ

- ・パドルでのエレキーの符号が解読出来ます
- ・縦振キーやバグキー、複式キー等の符号が解読出来る様に練習すると送信に自信がつかます

二つ目 受信練習器 (NHC-05G) と繋ぎ 苦手符号の克服に役立ちます

三つ目 リグと繋ぎ 受信の補助や 自分の送信符号も解読出来ます

(但し この場合設定が必要です、ゼロイン、受信ピッチ、サイドトーン の理解が必要です)

第 2 章 具体的な使い方

① モールス練習器 (GR301A/er) と繋ぎ解読をしてみます、

モールス練習器のイヤホン端子と CW 解読器の IN とを付属のコードで繋がります

- ・ **GR301A/er** の MON ツマミは右いっぱいの最大の位置にします
- ・ CW 解読器 には **中心周波数を合わせる 操作が必要です**、一旦電源スイッチを切り ファンクションスイッチの黒ボタンを先に押したまま 電源スイッチを入れます、直ぐに黒ボタンを離します(これで中心周波数設定モードになりました)
- ・ 更にボタン短く押すごとに 700 800 500 600Hz と変わります モールス練習器 と繋ぐ場合は 600 にします、次に このボタンを 2 秒位 **長押し** して **中心周波数を記録** します、この記録の操作をしないと 解読

できません

・パドルの左右のつまみを同時におして 米印の右の数字が 11 か 12 になるように モールス練習機のスピードを調整します(これ以上遅い符号は 解読出来ません)

・パドルを操作し **V V V CQ CQ CQ** と打ってみます 表示は右下から始まり順次左にシフトします、**解読には 最初の 5 文字位を解析して解読しますので 一つの符号に短点と長点が入った符号が必要です (最初の 5 文字位は短点だけの符号や 長点だけの符号では正しく解読出来ません)**

(余り遅い符号や 早すぎる符号は 解読出来ません、文字間のスペースも大事です)

・このようにして 解読モードに入れば 短点のみの符号や 長点のみの符号の解読も出来ます

② 受信練習器の解読をしてみます

・CW 解読器の 中心周波数を 800Hz にします

但し 受信練習器の出荷の初期周波数は 800Hz です、これを変えたときは その周波数に CW 解読器の 中心周波数を合わせます

受信練習器の符号を書き取り 取れなかった符号を確認できますので苦手符号の克服に役立ちます

尚 他社製の 受信練習器の場合 初期設定が 900Hz や 950Hz の場合が有ります この時は 受信練習器の周波数を 500.600.700.800Hz の何れかにして下さい それ以外の時は 解読出来ません

③ リグと繋ぎ 解読をしてみます

・リグのスピーカー端子と CW 解読器の IN とを 付属のコードで繋がります

CW 解読器の中心周波数を 600Hz 又は 700Hz にします

・検出つまみは 矢印を真上にします

・リグのダイヤルをゆっくり回し CW 解読器の 米印が はっきりと点くようにします

上手くいかない時は 検出レベルのつまみを ゆっくりと左又は右に回して再度やってみて下さい

・相手の符号を解読するだけでしたら これでよいのですが 自分の符号も 解読するには 次の 応用編をご覧ください

第 3 章 応用編

・まず **ゼロイン**します (ゼロインとは 相手の周波数と自分の周波数を合わせる事です)

ゼロインの仕方は リグによって違いますので お使いのリグの取説を良くご覧ください

こちらのリグの場合は ゼロインインジケータの中心にダイヤルを合わせます、このゼロインした時の音を **受信ピッチ**又は **CW ピッチ** と言います これが 500.600.700.800Hz の何れかが 解読条件です 900Hz や 1KHz では解読できません

検出レベルのつまみは 最初 矢印を真上の位置にします 上手く解読できない時は ゆっくりと左又は右に回し 米印が はっきりと点くようにします

尚このつまみは単なるレベル調整ではなく ノイズのレベルと信号のレベルとの境目を決めるしきい値の調

整用です

次に電鍵を操作し 送信した時にスピーカーより出る 音を **サイドトーン**と言います この周波数が 先ほどの **受信ピッチと合っていることが** 自分の符号も 解読出来る条件です

こちらのリグの場合は 受信ピッチを変えると サイドトーン もそれと同じ周波数に変わり 受信ピッチと サイドトーンが連動しています

・パドルや縦振りキーを操作し 自局の符号も解読してみます

尚 CW 解読器のモニター音は 送信練習器と繋いだ時は 矩形波の為 小さな音量でも 割とはっきりと聞こえますが リグの音は サイン波に近い為 同じ音量でも 小さな音に感じます この時のモニター音を大きくするには CW 解読器の左側面の OUT 端子に 別途スピーカーを接続して下さい、又はこの様な市販のアンプ内蔵のスピーカーを別途お使い下さい、但しこちらのアンプ内蔵スピーカーの場合 元々付いていたプラグの配線が適合せず 別のプラグへの交換が必要でした